

コスタリカ内政・外交定期報告（2022年5月）

2022年5月の当国内政・外交主要事項を以下のとおり報告申し上げます。

【要旨】

内政

- 1 新たな国会執行部の決定
- 2 チャコン大統領就任式（概要）
- 3 チャベス政権初の閣議における政令等発表と右への反応
- 4 チャベス大統領による公務員年金改革及び政府機関の統合に関する法案の発表
- 5 チャベス大統領による治療目的の中絶に対する方針転換
- 6 サイバー攻撃による教職員への給与未払いに関する教育組合との合意

外交

- 1 チャベス大統領によるキューバとの教育協定の破棄
- 2 バイデン大統領夫人のコスタリカ訪問
- 3 韓国外務政務官のコスタリカ訪問

【各論】

内政

1 新たな国会執行部の決定

（1）新国会執行部は次の通り（任期は1年）：

- ア 国会議長：ロドリゴ・アリアス議員（国民解放党（PLN）、75歳、元大統領府大臣）
- イ 副国会議長：グロリア・ナバス議員（新共和国党（PNR）、74歳、元検察庁検事、弁護士）
- ウ 第一書記：リナ・アホイ議員（キリスト教社会統一党（PUSC）、34歳、元国会顧問）
- エ 第二書記：ルス・マリ・アルピサル議員（与党社会民主共和党（PPSD）、54歳、PPSD創設者兼委員長）
- オ 第一書記補佐：ジルベルト・カンポス（自由進歩党（PLP）、44歳、元コスタリカ消費者協会副会長）
- カ 第二書記補佐：ロザウラ・メンデス（国民解放党（PLN）、59歳、コスタリカ工科大学講師）

（2）国会執行部選挙では、野党であるPLN、PNR、PLP、PUSCの4政党が6つの役員ポストを分け、与党のPPSD（及び左派のFA）を排除することが4月30日の段階では決まっていた。右4党は協定を結び、具体的な法案での協力を明示はしなかったもの

の、透明性、生活費、生産費、経済活性化、教育、国家の最適化、民主主義強化に関するテーマで協力することを決めた。

2 チャベス大統領就任式（概要）

5月8日、国会本会議場で、チャベス大統領の就任式が行われたところ、概要以下の通り。なお、日本からは、特派大使として西村康稔衆議院議員が就任式に出席した。

（1）主な出席者

ア 当国：チャベス新大統領、アルバラード前大統領、各夫人、アリアス国会議長、新国会議員、新閣僚、サモラ最高選挙裁判所（TSE）長官他

イ その他主要出席者：

フェリペ6世・スペイン国王陛下、ドゥケ・コロンビア共和国大統領、アビナデル・ドミニカ共和国大統領、オスマニ・コソボ大統領、ピサス・キュラソー首相、コルティソ・パナマ大統領、アフヌッシュ・モロッコ首相、バルアルテ・ペルー副大統領、ボレロ・エクアドル副大統領、ウジョア・エルサルバドル副大統領他

（2）チャベス新大統領による就任演説の概要

ア 厳粛に、歴史的な責任感をもって、我々の将来だけではなく、人類全体にとって重要なこの時代に、大統領綬を受け取ることを誇りに思う。2026年5月8日まで、国民の負託に応えるために、全力を尽くすことを誓う。

イ 我々は、変化を起こすために呼ばれた。今こそ、我々に多大な負担をかけている古い慣習と決別する時である。再び政治の指導者達が失敗した場合、この国は崩壊する可能性がある。

ウ 現在の状況は、我々が鏡の前で自らが気に入らない姿を見ているかのようだ。教育制度に関し、我々の国は中米地域で模範的とされてきたが、現状、教育の質は悪化しており、「教育に関する第8回政府報告書」が明らかにしたのは、新型コロナウイルス危機が「教育の停電（apagon educativo）」を引き起こし、十分なインターネット環境で勉強することができない、最も脆弱な層の、何千人もの子どもや若者の学びの機会が奪われた。それだけではなく、2020年、新型コロナウイルス危機前に、18歳から22歳の若者の約60%が高等教育を修了していないと答えたのも偶然ではない。

エ そして、この鏡は、創意工夫とそれぞれの能力を生かして働くものの表情を映す一方で、十分な仕事が無く一日を終えるものの表情も同時に映す。我々の国はすべての国民のお腹を満たす肥沃な土地を持つにも関わらず、同時に、生活するために最低限に必要なものさえも買えず、飢餓に苦しむ者が多くいる。

オ 我々の国は、200年の歴史を誇る民主主義国家であり、市民ひとりひとりに根付いた文化は世界の人々を魅了してきた一方で、現在鏡に映るのは、自己矛盾、政党・伝統的政治に対する無関心と猜疑心である。鏡が映すのは、公共機関の体制を構築したが、何十年もの間、質の高い公共サービスを提供しないどころか、腐敗に満ちた内部構造を改革することがで

きていない現実である。社会保険庁（C C S S）は長らく機能不全に陥っているが、最高裁憲法法廷でさえ、同庁を動かすことができていない。

カ 我々は、国の中央のみで経済が発展し開発が進む姿を、地方が遠くから悲しみと無力さで見つめているような国を望んではいないが、これこそが我々コスタリカ国民全員が見ている鏡が映し出すものである。毎年、国家の様々なデータが映し出す現実には、民主的で平和で豊かな国の生活ではなく、市民の生活の困難さであり、この矛盾が我々を傷つける。

キ 我々は歴史を作り、コスタリカを未来に導くことができるであろうか。もう一度夢を見る機会を得ることができるだろうか。それこそ、我々が克服しなければならない課題である。絶望の罠に陥ってはならず、変化は起きないという声に騙されはいけない。

ク 過去の支配者層は、なされるべき決定をしなかったことの言い訳として、コスタリカは統治不可能な国であると我々に信じ込ませた。しかし、私は、自らに投票した人々の意志に従い、この国が統治できないという言い訳は決して使わない。リーダーシップ、エネルギー、決断力、謙虚さをもって、私と私のチームは、多数の利益のために行動することを要求する人々の意志に従い、それを行うことを確信する。

ケ 私は、全員を団結させ、この政府で最高のものを求め、平和、尊厳そして未来のために働く。敬意を込めた注意深い対話を通して、大多数の利益を犠牲にし、少数で利益を得るために長年にわたりお互いの発展を弱体化し、分裂している国会議員、組合、企業、公的機関の和解を求める。

コ 女性達よ、あなた達は祖国のかけがえない一部であり、我々はあらゆる場所で起こる女性に対するハラスメントを容認しない。だからこそ、私の大統領としての最初の政治的なコミットメントは、女性に対するあらゆる差別やハラスメントを撲滅することである。

タ 高齢者達よ、今日我々が享受している恩恵はあなた達の努力の成果であり、あなた達の仕事により、我々の故郷の基盤が築かれた。

チ 先住民族の人々よ、今日、コスタリカの歴史上はじめて、先住民族の国会議員が誕生した。私が彼らに伝えたいのは、彼らは、（我々の社会に）包摂されるということである。彼らが異なる者のように扱った、恥ずべき我々の負の歴史を清算する。実際には、我々は皆共通の欲求と願いを持ったコスタリカ国民である。

ツ L G B T Qの人々には、公平性と多様性のための戦いを通して彼らが達成した権利に敬意を示し保証する。

テ 国立大学の関係者よ、私達は彼らの自律性を尊重するが、自律性は無駄を意味するものではない。公的資源の有効性と効率性を必要とする若者の未来を築くのは簡単ではない。

ト 公務員よ、私が彼らに伝えたいのは、彼らが持つ責任は、国に奉仕するというコミットメントと献身である。国民に尽くすことがあっても、国民を蔑ろにし、搾取することは許されない。

ナ 我々の経済の本質的なエンジンである民間部門よ、我々は、起業家が国の発展に貢献することを妨げてきた障害を取り除く。他方で、倫理を失った起業家に伝えたいのは、役人を

腐敗させることは許さない。私的な独占、大多数の利益を犠牲にして一部の者だけに裨益する公共政策の特権は終わった。

ニ 投資家達よ、国はその債務に責任がある。私達は決して支払いを怠ったことはない。私達は、国民、公民、そして債権者達との間にある義務を果たすために行うべきことをする。

ヌ 組合よ、私が彼らに伝えたいのは、問題は、政府か民間企業か、ではなく、この国に働くすべての人々の幸福を公正かつしっかりと追及することである。

ネ 野党勢力は、国民の勢力でもある。彼らはまた、私たちを一つの国として団結させる共通の鼓動である。政治的指導者達への信頼を取り戻すために努力し、同じテーブルに座り、透明性を確保し、お互いの目を見て、我々の国に平和、静けさ、発展をもたらすための合意に達することができるということを、ともにコスタリカ国民に示したい。

ノ また、我々の領土を、麻薬を輸出し保管するために利用している者に告ぐ。他の場所を探せ！我々の故郷において麻薬が存在することを容認しない。

ハ 腐敗した人々、組織犯罪の指導者、街頭で市民を怖がらせている人々に告ぐ。我々はこのような人々に休息の時間を与えない。もし、国家が国民の安全を保障できない場合、我々は国として失敗する。愛をもって国に仕える者にとって、この失敗は許されない。

ヒ 国際社会よ、我々は伝統的にも、これからも平和主義者であり続けることを強調したい。常備軍を放棄したコスタリカは誰に対しても軍事的な脅威ではない。我々が、世界、そして各国政府に、調和、理性、平和、人間の尊厳の尊重のコミットメントを呼び掛ける。ロシアによるウクライナ戦争の平和的解決を共に祈りたい。

フ 前政権の終わりは、我々の出発を意味する。今は我々の時間である。我々は働き、決定し、改善していく。コスタリカよ！より良いもの (lo major) はようやく訪れる。

(3) 大統領就任式会場付近におけるデモ活動

ア 5月8日付「ラ・ナシオン」紙によると、大統領就任式の終了間際、大統領就任式の会場である国会前のデモクラシア広場で、小規模の女性活動家グループが、封鎖地域の柵を乗り越え侵入しデモ活動を行った。

イ デモ活動を行ったグループは、野党拡大戦線 (F A) の旗を掲げている者もいたが、ほとんどはフェミニスト活動家のメンバーであり、チャベス大統領への批判の声を挙げた。

ウ F Aのソフィア・ギレン議員は、右デモ活動が、F Aによって組織されたものではないことを主張した一方で、デモの参加者が声を上げる権利を有していると主張した。

3 チャベス政権初の閣議における政令等発表と右への反応

(1) 5月8日、チャベス大統領は、サンホセ市中心部にある文化省所有劇場 (旧税関) において、第1回目閣議を開催し、政府各機関へのサイバー攻撃に対処するための国家非常事態宣言発出、(新型コロナウイルス対策としての) 保健医療従事者を例外とするマスク着用義務制度の撤廃、ワクチン接種義務の撤廃 (保健医療従事者を除く)、国内産コメの最低販売価格の撤廃についての政令の承認を受け、署名した。他方、同大統領は、同閣議で電気料

金値下げ、5G導入のための6か月以内のアクションプラン公表、農薬化学薬品導入の認可を各省庁に指示した。

(2) しかしながら、これら一連の政令については、国内各界から異議の声が上がり、コメ価格については、9日時点において、大統領府法令・政令担当部署にて政令の妥当性他につき検討を行っている。この件に関しては、アナリストらもコメ最低販売価格の撤廃は、ウクライナ戦争により穀物の国際価格が上がり、海上輸送コンテナ危機にある現在、競争原理によるコメの値下げを目指したとしても、国内消費者に利することが無くタイミングをわきまえない行為であるとの見解を示している。

(3) また、マスク、ワクチンに対する措置については、コスタリカ医師会や社会保険庁(CCS)関係者等が、同措置が科学的根拠に欠けることなどから反対を表明するなど大きな批判を呼んだ。さらに、マスク着用義務の撤廃については、9日時点において、マスメディアから問い合わせを受けた様々な専門家が、未だ新たな新型コロナウイルス感染流行の波が押し寄せる可能性がある中、さらには、最近の2週間で感染者数が増えつつある中で、今次決定は時期尚早でありタイミングを逸している上、科学的根拠に欠けているとの見解を示した。労働訴訟弁護士であるパオラ・グティエレス氏は、ワクチン接種義務化を撤廃するのであれば、手続き上、保健省の国家ワクチン・伝染病委員会がまず決裁を下す必要があると主張している。右については、憲法学者のルベン・エルナンデス氏も意見を同じくしており、保健省の科学的根拠に基づく同意無くしてワクチン接種義務化を撤廃することは違法であるとの見解を示す。

(4) 結局、5月11日、保健医療従事者を例外とする新型コロナウイルス対策としてのマスク着用義務化措置の撤廃政令(保健医療施設における訪問者のマスク着用義務は継続)は官報で公示された。しかし、政府は、対新型コロナウイルス用ワクチン接種義務化撤廃は諦め、3回接種を行っていない官民の被雇用者の解雇という罰則措置適用を控えるよう各界に要請する旨のトーンを若干抑えた政令を公示した。

(5) この決定に関し、11日、チャベス大統領はビデオ会見で、「民主主義のもとでは、個人の自由が重要である」と今回のマスク、ワクチンに関しての緩和措置について説明した。その一方で、ワクチンの備蓄は十分にあるとし、国民にワクチン接種を呼びかけた。しかしながらチャベス大統領が「個人の自由」を持ち出し、一連の緩和措置を行ったことに関し医学界等から引き続き大きな批判が出ている。

4 チャベス大統領による公務員年金改革及び政府機関の統合に関する法案の発表

(1) 公務員年金改革法案

ア 5月9日、チャベス大統領は、与党社会民主進歩党(PPSD)の議員団長であるピラール・シスネロス議員を通じ、今次国会における優先議題の一つとして、5つの公的機関の職員に支給される、特別年金制度を廃止する法案を発表した。

イ 対象となる公的機関は、社会保険庁(CCSS)、電力公社(ICE)、ナショナル銀行

(BN)、コストリカ銀行(BCR、いずれも国営の市中銀行)、観光庁(ICT)の5つの機関である。右5機関は、CCSSの身体障害・老齢定年・遺族年金制度(IVM)と、強制年金制度(ROP)に加えて、第三の年金として、上述の職員のための特別年金制度のために税金を投入しており、同法案は、右の特別年金制度を廃止することで、財政上の改善を図ることを目的とする。

(2) 政府機関の統合に関する法案

ア 加えて、シスネロス議員は、異なる省庁に附属する15の政府機関を廃止する法案を発表した。

イ 対象となる政府機関は、社会医療支援技術委員会(CTAMS)、国家保健調査委員会(CONIS)等の15機関である。本法案は、右15機関の権限を各管轄省庁に統合することで、行政構造の簡素化と機能的な重複の排除を可能とし、閣僚による意思決定プロセスを改善することを目的とする。

5 チャベス大統領による治療目的の中絶に対する方針転換

(1) 5月19日、チャベス大統領は、同日大統領府で行われたカトリック教会関係者との会合の後、カトリック教会に対して、治療目的の中絶を認める技術的規則を見直すための委員会を開催することを約束した旨公表した。

(2) チャベス大統領は、本規則の見直しは大統領選挙キャンペーン中の自身の公約の一つであった旨主張し、同規則の見直しは、技術的規則が本来の目的から逸脱することを防ぐものであると述べた。また、委員会の作業は本年6月に開始される旨明らかにした。

6 サイバー攻撃による教職員への給与未払いに関する教育組合との合意

(1) 5月21日、政府は、先月発生した公共教育省の人事システムへのサイバー攻撃を理由に、給与の未払いが生じていた教職員に対し、未払いの給与を支払う旨規定した合意書を、教職員全国連合(ANDE)及びコストリカ教職者連合(SEC)の代表との間で署名した。本合意書には、政府側からは、ミユラー公共教育大臣他が署名を行った。

(2) 本署名に同席したチャベス大統領は、同サイバー攻撃を理由に全く給与を受け取っていない3,160人の教員及び一部給与未払いが生じている13,000人以上の教育者に対し、未払い分の給与を支払う旨約束した。

(3) ANDEのギルタ・モンテロ委員長は、今月末に状況が改善されたかどうかの意見調査を実施し、必要な場合は再度政府と交渉を行う旨強調し、問題が解決しなければ、「より過激な措置(medidas mas extremas)を講じる可能性を排除しなかった。

外交

1 チャベス大統領によるキューバとの教育協定の破棄

(1) 5月19日、チャベス大統領は、教育分野の協力に関するキューバとの協定の破棄を

発表した（※本協定は、2019年、前アルバラード政権で、エドガー・モラ公共教育大臣（当時）が署名した覚書であり、教育分野における研究の成果の共有、共同シンポジウムの開催等について記載されていた。協定の期間は署名の日から4年間であるが、契約期間の延長が可能であった）。

（2）チャベス大統領は、本協定の破棄は、選挙キャンペーン中に有権者に約束した公約の一つであったと述べ、本協定は公共教育と学生の教育の観点から利益をもたらしていない旨主張した。加えて、チャベス大統領は本協定には無関係ない2021年6月に公共教育省が発行した雑誌の中に性的な描写を含むキューバの小説が引用された記事が掲載されたことによって生じたスキャンダルを引き合いに出し、キューバとの教育協定は多くの論争を引き起こすと述べた。

（3）右発表に対し、野党新共和国党（PNR、右派）の国会議員団長であるファブリシオ・アルバラード議員は好意的な反応を示し、「前政権によって署名されたキューバとの教育協定に関して、我々はイデオロギーの問題等から厳しく批判してきた。コスタリカがこの協定の恩恵を受けていないのは明らかであり、我々は破棄の緊急性について主張してきたので、チャベス大統領による本協定の破棄の決定を祝う」旨述べた。

2 バイデン大統領夫人のコスタリカ訪問

（1）チャベス大統領夫妻との会食（21日）

5月21日バイデン夫人は、米国大使公邸にてチャベス大統領及びゼイカテ大統領夫人との会食に出席した（テレス米国大使同席）。チャベス大統領は、同会食前の取材に応じた際、「バイデン夫人に対して挨拶する機会を得ることができたことは大変名誉なことである。米国とコスタリカの友情は古く、確固としたものであり、我々はそれをひとえに強化し続けたいと考えている」と述べた。

（2）コスタリカの女性起業家との会合（21日）

ア 21日、バイデン夫人は、過去数年間に、米国政府が西半球の新興国の女性に提供している女性のエンパワーメントに関するプログラムに参加した、コスタリカの16人の女性起業家との会合に参加した。

イ バイデン夫人は、女性主導のベンチャー・ビジネスの重要性を強調し、女性のリーダーシップに関するイニシアチブを支援するという米国政府の方針を再確認した。

（3）米国とコスタリカの白血病治療のための協定の発表（22日）

ア 22日、バイデン夫人は、国立子ども病院を訪問した際、25歳未満の白血病患者に米国で免疫療法を提供するための協定を発表した。同発表には、ザイカテ大統領夫人、ムニベ第二副大統領、ラモス社会保険庁長官、アルバレス同病院院長、テレス米国大使に加え、米国ペンシルバニア大学及びフィラデルフィア子ども病院の医師らが同席した。

イ 同協定は、バイデン夫人を証人とし、アルバレス院長と、米国ペンシルバニア大学及びフィラデルフィア子ども病院の医師の間で署名された。バイデン夫人は、「本協定は、コス

タリカのがんの子どもたちにとって、大変重要な機会となる」と強調した。

(4) アラフェラ予防センターの訪問 (23日)

ア 23日、バイデン夫人は若者へのスポーツ、英語、コンピューターサイエンス等を学ぶ機会等の提供を通して、若者が犯罪に手を染めることを事前に防止することを目的とする、アラフェラ予防センターを訪問した。

イ 同訪問に同行したテレス米国大使は、同センターは、コスタリカの全83市で実施されている「Sembremos Seguridad」イニシアチブの一つとして、麻薬密売や犯罪を抱えるコミュニティにおいて若者に対して健全な選択肢と安全な空間を提供する役割を担っている旨説明した。

3 韓国外務政務官のコスタリカ訪問

(1) 5月23日、Yeo Seung-bae 韓国外務政務官は、コスタリカを訪問し、ギジェルメ外務大臣との会談、「韓国政府による廃棄物管理と公衆衛生と環境の保護のためドローン供与」の記念式典、韓デジタル協力に関する円卓会議に出席した。Yeo 政務官には、韓国の外交部、法務部、行政安全部、国家情報院、韓国インターネット振興院、韓国金融決済院等の行政機関のメンバーから構成される代表団が同行した。

(2) 本会合は、韓国の新政権発足後初めてのハイレベルによるコスタリカ訪問であり、本年の韓国・コスタリカ外交関係樹立60周年の枠組みで両国間との関係を発展させること及びサプライ・チェーンやデジタルに関連する特定の協力プロジェクトの実施の可能性について模索することを目的とした。

(了)